

福島県を元気にする会 福島県のお酒を飲もう！ in 椿山荘

蔵元復興支援イベントに、首都圏の日本酒ファンが結集



会場の模様



地酒の販売も



枝野官房長官も「がんばっぺ福島！」と乾杯



地震、津波、原発事故、そして風評被害で苦しむ福島県の蔵元を励まそうと、5月30日の夕べ、『福島県を元気にする会～福島県のお酒を飲もう！』が、東京都文京区の椿山荘で開催されました(主催＝藤田観光㈱、参加費 5000 円)。会には県内の蔵元 34 社が参加して自慢の地酒をサービス。一日も早い福島の復興を願う日本酒ファンと交流のひとときをすごしました。

今こそ福島に恩返しするとき

「復興のためにどんなお手伝いができるか社内で検討したところ、ある女性社員が『私たちの便利な暮らしは、福島県が電力供給してくれたお陰。今こそご恩返ししなければ』と発言しました。これこそ私たち首都圏の人間の気持ち。お酒と食材でふるさと復興のお手伝いをしよう、そんな気持ちをお伝えしたくて今日の会を開きました」と語るのは、椿山荘を運営する藤田観光の末澤社長。

わずかな準備期間だったにも関わらず、チケットも早々と完売になったとのことで、この夜の会には、300 人の定員を大きく上回る 380 人が結集。末澤社長の言葉どおり、まさしく福島を思いやる首都圏の日本酒ファンの心意気を示すものとなりました。



末澤社長

がんばっぺ福島！ 負けないぞ福島！

会では、福島県酒造組合の新城会長が「福島の清酒業界は、蔵の全壊、流失など大きな阻害に見舞われました。風評被害も障害になっていますが、平成 23 年度の全国新酒鑑評会で金賞受賞数第 2 位になるなど、困難の中でも福島の酒の品質はどこにも負けていない。今日はそんな私たちの誇りをぜひ味わってほしい」と挨拶したのに続いて、東京福島県人会の相羽史朗理事長が「がんばっぺ福島！ 負けないぞ福島！」と乾杯の発声。

34 蔵のブースがずらりと並んだ会場には、福島県産の食材（畜産物や山菜、海産物など）を使用したbuffetを中心に、地酒の販売コーナーや福島の食品の魅力を網羅した地産品直売コーナーなども設けられ、参加者は、少しでも復興に協力しようと商品を購入したり、蔵元や組合関係者と言葉を交わし合ったりしていました。



福島の地酒や椿山荘の宿泊券が当たるお楽しみ抽選会も

また、会の途中には枝野官房長官も姿を見せ、「私も福島のお酒が大好きなので駆けつけました。原発事故の問題では皆さまに大変なご迷惑をおかけしていることを心からお詫び申し上げます。福島の食品は安全です。政府としてもそのことを内外に訴えていくつもりです」と挨拶。最後に「がんばっぺ福島」の掛け声で乾杯の杯を掲げると、会場からは政府の力に期待する大きな拍手が湧き上がりました。



乾杯の発声をする相羽氏(上の写真右も、左は新城会長)



義援金にも積極的に協力

